14101	地球市民論 Survey of Global Citizenship		1年次～ 後期 2単位
担当者	細谷　瑞枝／志賀　市子	履修可能学科	C必
		関 連 資 格	日本語選必（C）
サブタイトル	オリエンタリズムと現代日本の自己/他者表象、地球市民の自覚と異文化理解		
授業内容・ねらい	（前半） 日本人は異文化を、他者をどのように表象してきたのでしょうか。日本人にとって身近な他者である中国や朝鮮の人々は、日本の映画や小説や学術研究において、どのように描かれてきたのでしょうか。また日本人は自分たちの文化を、またその歴史をどのように自己表象してきたのでしょうか。日本人ほど日本文化論が好きな国民はいないと言われますが、日本文化論とは日本人の、日本人による、日本人のための自己表象の一つということができます。 この授業では、日本人のアジア観がいかに形成されてきたのかを、西洋の東洋に対する文化的支配の総体としての「オリエンタリズム」と関連させながら読みとくとともに、現代日本のさまざまなメディアに表象された自己像と他者像について批判的にとりあげます。（志賀市子担当） （後半） 「地球市民」というと、NGOやNPOで働くことや、国際的に活躍している人を思い浮かべてしまいますが、私たちの日常はすでに世界と密接につながっており、自覚していないにしても私たちは誰でも地球市民の一員です。授業ではまず身近なことを通して、私たちの生活が国境を越え相互に依存することで成立していることを確認します。 一方、「誰でも地球市民」とはいうものの、現実には人種、宗教、言語など様々な違いとそこから生ずる対立があります。この問題に柔軟に対応するには、文化が人のものの見方や価値観を規定しているという認識が役に立ちます。海外に行くまでもなく、キャンパスや近所で外国の人と交流する機会も増えてきました。ちょっとした文化摩擦は自文化を意識するチャンスですが、無用なトラブルは避けたいものです。多文化共生時代に向けて、コミュニケーションのありかたについても考えてみましょう。（細谷瑞枝担当）		
授業計画	（前半） ・オリエンタリズムとは？ ・近代日本のオリエンタリズム　日本人のアジア観 ・メディアにおける他者表象　ハリウッド映画の中のアジア人、日本人 ・日本の漫画、映画、コマーシャルにおける他者像 ・博物館展示における他者表象、自己表象 ・日本の博物館展示における自己像と他者像 ・アジアの博物館展示における日本像 ・日本人論、日本文化論にみる日本人の自己表象 （後半） ・グローバルな世界とは？ ・食卓から考える地球規模のつながり ・文化相対主義と普遍主義 ・ことばによるコミュニケーション ・ことばによらないコミュニケーション ・文化的特徴とステレオタイプ ・多文化共生社会の言語政策		
教科書 参考書	教科書はとくに指定しない。参考書については、授業中に随時提示する。		
評価方法	担当者が、それぞれ出席、平常点（授業中に書かせる小レポートを含む）、試験（もしくはレポート）の三点から総合的に評価し、それを合計して評価する。		
事前準備学習 履 修 条 件 等			